

## 【明治 29 年の水害】

木曾三川に囲まれた濃尾平野西南部は、わが国有数の洪水常襲地域で、水害に苦しみぬいて来た。

明治時代にも数度の水害を受けたが、中でも明治 29 年の洪水は西濃全域を濁流の海とした最大の、そして最後のものになった。

明治 29 年(1896 年)7 月 21 日、大洪水が発生し、木曾三川沿岸では、加納輪中・森部輪中・牧輪中を除く全輪中が破堤した。大垣の最大の湛水深さは 14 尺(4.2m)にも及び、天守の石垣も水没した。

この災害復旧の真っ直中の 9 月、大垣輪中は再び大洪水に見舞われた。9 月 7 日午前 5 時に水門川が破堤して今村輪中に流れ込み、8 日午前 3 時には杭瀬川筋の多芸島で破堤して、大垣輪中は完全に水没した。

湛水位は 7 月よりも市街地において 3 尺 7 寸(約 1.1m)も高く、大垣城も再び水没した。ほぼ全市街地が浸水し、市中は舟を使つての移動しかできないほどの大洪水となり、多くの人々が行き場を失った。

湛水した大垣輪中の排水のため、7 月、9 月とも乙濤(みよ)切りが行われた。乙濤切とは、洪水氾濫により生じた湛水を排水するため堤防を開削することだが、7 月、9 月とも大垣輪中最南端の「横曾根」地先で行われた。大垣城の石垣西北角には、金森吉次郎の手により「明治 29 年大洪水点」が刻まれ、標識が建てられている。

## 【昭和 34 年の水害】

昭和 34 年は 9 月に発生した伊勢湾台風の年として、記憶に残る年であろう。しかし、西濃地方では昭和 34 年 8 月 12 日～15 日にも台風 7 号による洪水で大きな被害が出た。

揖斐川流域では 1 時間 30～50 mm の強雨があり、特に東横山では 12 日の日雨量 420 mm を記録した。以後台風 7 号の接近により、揖斐川流域は連日 200～300 mm の大雨となった。その結果、東横山では総雨量 638 mm を記録。当時の計画高水水位を超える出水となった。下流今尾では既往最高水位を超えた。

そしてついに、養老町根古地で破堤、2,500ha が泥沼に化し、さらに下流の多度川も破堤 250ha に濁流が流れ込んだ。

この惨禍が回復せぬ 9 月 26 日～27 日には、またも大洪水が起こった。

この洪水は伊勢湾台風と称せられ、災害史上、未曾有の大災害をもたらした。全国で死者 4,541 名、行方不明者 64,733 名、被害総額 5,543 億円。降雨は木曾川流域で 100～220 mm、

長良川流域で 100～300 mm、また揖斐川流域では 300～400 mm である。

三川で比べると揖斐川流域が一番多く、台風の接近に伴って短時間に強い雨が降り、時間雨量 60～80 mm に達し、牧田川・揖斐川・長良川・木曾川の順に警戒水位を突破し、やがて揖斐川・藪川(根尾川)・牧田川大野は既得最高を上回り計画高水位を突破した。

このため牧田川根古地は、さきの 8 月洪水で破堤し、ようやく応急閉め切りを完了した矢先に再び揖斐川本流の背水の影響を受けて破堤の憂き目を見た。

人的被害は、死者は岐阜市での 5 人をはじめ岐阜県内で 8 人。行方不明者は 1 人。重傷者 6 人。軽傷者 16 人に達した。岐阜県内の床上浸水は 24,209 件、床下浸水は 51,276 件に達した。特に安八町と墨俣町の被害はひどく、床上浸水は各 1,744 件、1,190 件。床下浸水は各 366 件、152 件に及んだ。

## 【昭和 51 年の水害】

昭和 51 年の水害は「9.12 水害」と呼ばれる岐阜県史上最悪の水害であった。特に 9 月 12 日の安八町内の長良川右岸堤防決壊による被害が甚大であったことからこう呼ばれている。

台風 17 号の接近に伴い、9 月 8 日から降り始めた雨は大雨となり、9 日時点での岐阜県内の被害は、けが人 3、家屋全壊 2、家屋半壊 2、床上浸水 653、床下浸水 4,711、山崩れ 61、道路損壊 17 に及んだ(9 月 9 日岐阜日日新聞夕刊による)。

9 月 12 日午前 10 時 28 分、安八郡安八町大森の長良川右岸堤防道路が決壊した。濁流は、安八町と隣接する同郡墨俣町(現大垣市墨俣町)全域を襲い、水防活動をしていた区長 1 人が死亡したのをはじめ、3,536 世帯が床上浸水などの被害を受けた。被害総額は両町併せて約 130 億円に達する岐阜県史上最悪の河川決壊となった。

このとき、大垣も 9 月 8 日～14 日の降雨量は、824mm という記録的な豪雨となった。大垣市にも自衛隊が派遣され、人命救助、復旧作業を行った。

人的被害は、死者は岐阜市で 5 人をはじめ岐阜県内で 8 人、行方不明者は 1 人。重傷者 6 人。軽傷者 16 人に達した。岐阜県内の床上浸水は 24,209 件、床下浸水は 51,276 件に達した。特に、安八町と墨俣町の被害はひどく、床上浸水は各 1,744 件、1,190 件。床下浸水は各 365 件、152 件に及んだ。